いのちあふれる森を次世代へ

しれとこの森通信

2021
No. 24

P2
特集
「知られざる冬の100平方メートル運動地」

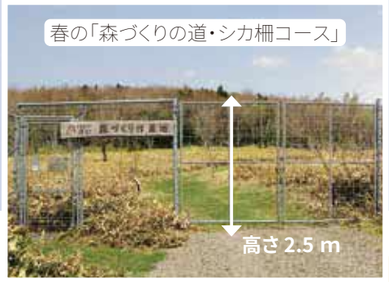
P6
2020年度活動報告

P9
しれとこニュース

National trust 100㎡ Movement Forest Trust
100平方メートル運動の森トラスト

知られざる冬の100平方メートル運動地

■冬の「森づくりの道・シカ柵コース」の風景。



冬は何やってるんですか？

運動地を訪れた皆さんによく聞かれる質問です。確かに知床は、一年の半分は雪に覆われています。そのため、冬場は作業ができないと考える人が多いようです。しかし私たちは、長い冬も他のシーズン同様、運動地で活動しています！

今号の特集は、皆さんの疑問に応えるため、知られざる冬の運動地やその作業についてお伝えします。

知床の冬は厳しい？

冬の知床と言えば、極寒の地をイメージする方も多いのではないでしょうか。知床半島の西側、運動地のある斜里町は、北海道の他地域と比べて、冬が格別に厳しいわけではありません。降雪量は札幌と大差なく、厳冬期の気温は旭川ほど冷え込みません（図1参照）。しかし、知床半島の地形が知床特有の気象現象をもたらします。オホーツク海が流氷に覆われる2月は、内陸の様に冷え込む日が続きます。また、発達した低気圧が通過すると記録的な強風と大雪に見舞われることも珍しくありません。

運動地は、例年11月から4月まで雪に覆われます。しかし、海側の草原は、周囲の森が開拓時に伐採された影響により、背後にそびえる知床連山からの強風で雪が飛ばされ、真冬でも地面が露になってしまいます。このような環境は、冬に餌を求めるエゾシカが集う絶好の場所になり、結果的に冬を生き延びるエゾシカが増え、森林の植生にダメージを与える状況を招いています。このように、開拓跡地の森林化がなかなか進まない状況には、冬の気象条件が深く関わっています。

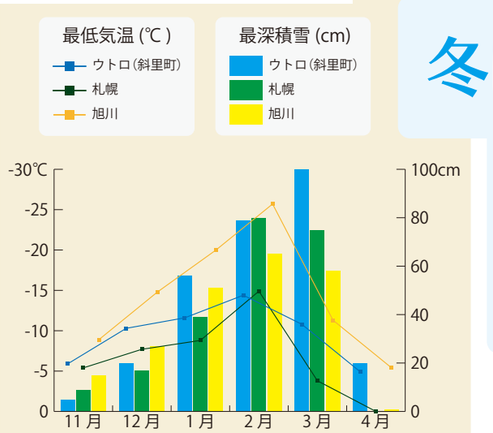


図1：冬期（2019年11月～2020年4月）最低気温・最深積雪

雪が木を守る

自然に生えた幼木や植樹した苗木は、冬の強風に曝され続けると、冬芽が傷つきダメージを受けます。そのため森づくり作業地では、局地的に強風が吹く場所に防風柵を設置して、木々の成長を助けています。風を止めることで雪が積もり、幼木や苗木は雪の中で寒さや風から守られ、無事に越冬できます。また積雪状態を作ることで、エゾシカを遠ざけることにも繋がります。防風柵はシンプルな手法ですが、開拓跡地の森林化を早める手法として絶大な効果があります。

この防風柵の設置から約20年の歳月が流れました。柵の老朽化が顕著になってきましたが、柵のおかげでこの地に植えたアカエゾマツの苗木は順調に育ち、今や樹高は防風柵を越えました。今後、これらのアカエゾマツが更に成長すれば、防風効果を発揮するようになり、周辺の幼木を積雪で守ることができます。このように森林化のプロセスが進展するまで、防風柵を維持する必要があり、冬期も定期的に点検を行っています。

↑知床連山からの強風を防ぐ、防風柵。
←防風柵の効果で雪に埋まっているアカエゾマツの幼木。雪が寒さや強風から木を守っています。

吹雪の後は要注意！

斜里町はひと冬に数回、猛吹雪に見舞われます。そんな時私たちは、不要な外出は避け、天候の回復を待ちます。自然の猛威は運動地の森にも爪痕を残します。森の中には折れた枝や倒木が散乱し、時には森の木々をエゾシカから守るために建てた防鹿柵が損壊することもあります。エゾシカの生息数が減少傾向にある運動地とはいえ、万が一柵内にエゾシカが浸入してしまうと、育てている広葉樹が食べられてしまいます。このような事態を防ぐため、荒天後は森づくり作業地の確認に出かけます。

防鹿柵は大小含め20基あり、約860ヘクタールの運動地内に点在しています。冬期は車で行ける場所が限られているため、防鹿柵までのアクセスは、スノーシュー（かんじき）やスキーを履いて歩いて行きます。そのため、一日で全ての防鹿柵を点検することはできません。損傷の可能性が高い、古い防鹿柵を優先的に見回ります。また、エゾシカの越冬地に近い場所の防鹿柵も注意が必要です。防鹿柵の損壊は、ほとんどのケースで倒木が原因です。早急に補修しますが、資材をソリに載せて運ぶため多くは積めません。応急処置で冬をしのぎ、雪どけ後に改めて本格的に補修します。

冬の森の中

深雪に埋もれながら、雪に閉ざされた道を進み、森の中に足を踏み入れると、静寂に包まれます。その静けさの中にいると、人里から離れてしまったことに気づき、少し身のすくむ思いがします。しかし雪の上には、エゾリスの足あとが賑やかに残り、頭上では時折コガラの群れがせわしなく飛び去ります。冬の森の中でも動物たちの営みを確かに感じます。そしてその静寂は、氷点下の世界で生きる小さな命の温もりを私たちに伝えてくれます。

冬もボランティアさん大活躍

冬は雪により活動が制限されますが、反面メリットもあります。それは、険しいササ地を難なく歩けることです。運動地内で開拓当時畑だった場所はササ地になっています。森づくりでは、そのササを刈り払い植樹を行ってきました。しかし、一度の刈り払いではその勢いは衰えず、植樹地が再び険しいササに覆われてしまうケースがあります。このような場所は、ササに阻まれ容易に近づけません。しかし、冬ならスノーシューを履くことで難なく歩くことができます。冬はこのメリットを活かして、普段は人が近づけないような場所をあえて作業地に選び、間伐や古くなった樹皮保護ネットを巻き直す作業を実施しています。

冬期の間伐は、植樹後20年ほど経過したアカエゾマツ林で行います。アカエゾマツの大きさは、ノコギリで伐れるサイズのため手作業で間伐しますが、伐る本数が多いため、職員だけではなかなか作業が進みません。また、過去に巻いた樹皮保護ネットも経年劣化のため、相当量の巻き直し作業があります。このように冬も人手が必要なため、他のシーズン同様ボランティアさんの協力を得て作業を行っています。

毎冬、森づくりを応援するために多くのボランティアさんが集まってくれます。また、冬に知床を訪れる学校や企業に協力をお願いすることもあります。時にはマイナス10度以下の極寒の中で作業する日もありますが、過酷な状況下でも誰もが快く協力してくれます。そんな心温かく頼もしい皆さんと交流することが、私たちの何よりの励みです。

運動地は、森づくりを通して人々が交流を深め、自然との共生について深く考える場になっています。そして各々が、ここで感じた事をきっかけに、自然環境に貢献する行動を起こしています。100平方メートル運動は、人と自然を結ぶかけ橋になっています。

ボランティア体験談　ボランティア活動で真冬の知床に初挑戦！

「冬の知床を見てみたい！」シンプルな動機で参加したボランティア。経験したことのない寒さに包まれてひたすら枝を切る作業でしたが、ふと顔を上げると目前に広がるただただ真っ白な世界と、程よい距離感でアドバイスしてくれるベテランの方をはじめ世代を越えて集う方々の温かさが、初参加の不安を忘れさせてくれました。

また、行きます！

高橋理那さん（兵庫県）

長い冬を越えて…

3月末、本格的な春の到来はまだ先ですが、厳しい冷え込みは徐々に和らぎ、冬の森にも春を感じさせるサインが現れます。イタヤカエデがシロップの氷柱をつけ、バッコヤナギの花が咲き、あてどないヒグマの足あとが、冬の終わりと春の到来を知らせてくれます。長い冬を無事に越すこと、それは北国に生きるものにとってかけがえのない喜びです。

そして、いよいよ雪が融け、畑の苗木が顔を出せば、森づくりの新しい一年が始まります。巡る季節に感謝をしながら、100平方メートル運動はこれからも知床の自然の営みと共に歩みつづけます。

■ 春の到来を告げるバッコヤナギの雄花。

冬期森づくりの道

森づくりの道は、100平方メートル運動が保全している森を散策できるコースです。冬は、常設の「開拓小屋コース」に加えて冬期限定の「冬の森コース」も散策できます。

このコースの運営も冬の仕事の一つです。特に雪が降ったあとはコースが不明瞭になるため、看板の再設置や踏み跡をつける等、小まめに管理を行っています。

開拓小屋コースの展望地では、冬の知床連山を一望できます（上）。また、コース沿いにある開拓当時の建物からは、大自然の中で暮らした人々の生活を想像することができます。現在は、職員が屋根の雪下ろしや除雪を行っています（右）。

ボランティア活動の拠点

知床自然教育研修所

斜里町ウトロにある知床自然教育研修所は、知床をフィールドに活躍する研究活動や森づくりボランティアなどで利用できる斜里町の施設です。2020年には内装をリフォームしてWi-Fi環境も整い、より快適に過ごせるようになりました。

※ボランティア活動の日程は裏表紙を参照。

■ 利用料金：1200円/1泊（ボランティア600円）

■ 設備

客室	8部屋（和室×3部屋、洋室×5部屋）
共同スペース	台所・食堂・風呂・洗面所・トイレ・ミーティングルーム・ラボルーム
備品	テレビ・洗濯機・冷蔵庫・炊飯器・電子レンジ・トースター・調理器具・食器・洗剤等
通信設備	Wi-Fi完備（無料） ＊固定電話はありません

100平方メートル運動地

2020年度 活動報告

2020 年度は、運動地も他の地域と同様にコロナ禍の影響を受けました。日本全国から人々が集う森づくりボランティア活動やイベントは、中止若しくは縮小規模で実施しました。そのため、人と自然の交流は例年に比べ少なく、人手を要する森づくり作業もできる範囲で行いました。

森 森林再生

1 ササ地の森林化作業を進めています！

重機でササ地を掻き起して、樹木が生育できる環境を作っています。過去の作業地では、年を追うごとに実生の広葉樹が増え、森林化の兆しが徐々に現れ始めています。

2 アカエゾマツ林に広葉樹を植えました

昨年度間伐を行ったアカエゾマツ林に、中型広葉樹を移植しました。間伐により、多様な樹種が自然に生えてきますが、人の手で広葉樹を植えて更に樹種多様化を促進させます。

3 アカエゾマツ林の間伐進行中

重機による間伐は順調に進行しています。しかし、大量に発生する間伐材は、害虫の発生源になる可能性があります。今後は間伐後のリスクを減らしながら、慎重に作業を進める方針です。

川 生物相復元

1 海へ下るサケマス稚魚を調べる

どれくらいの数のサケマスの稚魚が川から海へ下っているのかを把握する調査を初めて行いました。結果、岩尾別川ではカラフトマス約 5 千尾、シロザケ約 2 万尾が下っていることが分かりました。

2 サクラマス復元に進展あり

近年、海から戻ってくるサクラマスの数は増加傾向を示しています。そこで、20 年以上続けてきた卵の放流を 2020 年秋から休止しました。今後は、自然状態での回帰状況に注目しながら復元に向けた取り組みを進めていきます。

3 進む岩尾別川の環境改善

世界遺産登録以降の数年間で 5 基の工作物（ダムなど）が改良されましたが、さらに運動地内に現存する 2 基の工作物についても、所管する北海道森林管理局（林野庁）より数年後の改良を目指した計画が発表されました。

人 運動地公開

1 子どもたちの声のない夏に

40 年間続いてきた知床自然教室ですが、新型コロナ感染拡大に伴い、初めて中止の判断をしました。そんな中、少しでも子どもたちに届けばと、オンラインにて知床の夏の様子を配信する試みも行いました。

2 知床で木を植える「森の集い（植樹祭）」

10 月の森の集いは、バス移動を避けるため植樹場所を知床自然センターの徒歩圏内に変更するなど、コロナ対策を行いながらの開催となりました。当日は 107 名の皆さんにお集まりいただきトドマツ苗 155 本を植樹しました。

3 いつの時も森づくりに欠かせない力

5月の開催は断念せざるを得ませんでしたが、10 月末の森づくりワークキャンプはなんとか開催することができました。感染対策を行いながらの 5 日間、参加者 11 名の皆さんは大型苗の移植など森づくりに汗を流しました。

アカエゾマツの間伐材をどうするか？

アカエゾマツの人工林を知床本来の森に近づけるため、2019 年から重機を用いた間伐作業を進めています。それに伴い、作業地では大量の間伐材が発生しました。この間伐材は、森づくりの原則に則り、運動地内で土に還す方針です。しかし自然のプロセスでは、大量の間伐材が土に還るにはかなりの時間を要します。また、長期に亘り間伐材の堆積が続くとキクイムシなどの発生源になる可能性もあります。

以上のことから、森林再生専門委員会議では、間伐材の対処方法について議論を行っています。現時点では、間伐材を自然のプロセスで滞りなく土に還すため、試験的にチップに加工することになりました。チップになった間伐材は、運動地公開コースの道に敷設したり堆肥化して苗畑で使う想定ですが、チップが自然に及ぼす悪影響がないかを見極めながら、慎重に実用化を判断する方針です。

間伐材の活用方法については、斜里町内外からアイディアや意見が寄せられています。これらについても広く耳を傾け、自然の営みを優先しながら、多方面の方々と一緒に活用方法を検討していきます。

また、間伐材を堆積している場所では、キクイムシの大発生を予見するための捕獲調査を行います。このように、間伐後のリスクを極力少なくしながら、アカエゾマツ林の樹種多様化を目指します。

本格的な「川づくり」簡易魚道設置に向けて

岩尾別川本流の工作物2基（林野庁所管）の改良が具体的に動き出しましたが、実はその上流にも魚の行き来を妨げている工作物があります。それは、支流の盤ノ川に掛かる橋脚下の落差工です。盤ノ川は、オショロコマの生息やサクラマスの産卵場所として重要な環境とされており、この落差工の改良も岩尾別川流域の環境改善を考える上で必須の案件となっています。

今回、斜里町の管轄するこの橋脚下の落差工の改良について、100平方メートル運動の「川づくり」として簡易的な魚道を設置する計画を進めることになりました。この魚道は、大規模な掘削や大型重機の使用は伴わない「簡易」的な作りで設計を進めているところです。

このような簡易的な魚道は、すでに北海道各地でも市民参加型の取り組みとして設置されており、その効果も報告されています。この運動での魚道設置も専門家に助言をいただきながら、地元の方々やボランティアの皆さんと一緒に作り上げていきたいと考えています。これからは森づくりだけではなく知床の「川づくり」にもぜひご注目ください。

■ 落差工の下にはオショロコマやヤマメの姿が確認されている（上）。測量中の専門家（下）。簡易魚道はある程度の増水にも耐えられる構造で設計します。

森づくりの現場から

鈴木　紅葉（くれは）さん

横浜国立大学大学院 環境情報研究院
森章（あきら）研究室

1995年生まれ、東京都出身。横浜市内の高校を卒業後、東京農工大学農学部に進学。在学時に知床財団のインターンを経験。2018年からは横浜国立大学の大学院に進み、現在は知床の森林をテーマとした調査研究に従事している。

鈴木さんはいつ頃から自然や森に関心を持つようになったのでしょうか。

きっかけは、高校の校外授業だったかもしれません。その授業では、森の中で目を閉じ静かに過ごすという時間があったのですが、その時に思いがけず「森を守りたい」と感じてしまいました。もともと小学生の頃から環境問題に関心はあり、漠然とその問題を解決したいという思いはあったのですが、その森での体験がより具体的に「森林」や「生態系」を意識するようになった瞬間だったのかなと思っています。

大学二年生の時に知床財団のインターンに参加されていますが、インターン先を決めた理由は何でしたか。

自分の進みたい方向を考えた結果、森林科学や生態系保全を学べる東京農工大学の農学部に進学しました。もともとは知床財団の名前も知らなかったのですが、親しい先輩が財団のインターン経験者で、その話を聞くうちに初めて興味を抱き応募したのが経緯です。一か月のインターンでは、エゾシカを捕獲するためのエサ運びや実際の捕獲の補助など様々な作業に携わりました。一番の経験は、生態系や野生動物管理の現場のリアルを身をもって感じたことです。その時は、まさか数年後に自分が知床で調査をするようになるとはまったく想像もしていませんでしたが。

大学院に進む際、横浜国立大学の森章（あきら）研究室を選んだ理由を教えてください。

森林や生態系について学ぶ中で、いわゆる「自然かく乱」にとりわけ興味を惹（ひ）かれ、もっとその分野の研究を突き詰めてみたいと考えるようになりました。そんな中、『エコシステムマネジメント』（共立出版）という本の中で森先生の生態系管理に対する考え方に出会い、この研究室で学んでみたいと感じたことが進路を定める決め手になりました。最初は、森先生が知床で調査をしていることは知りませんでした。偶然にも自分のインターン先と重なり、今考えてもこんな知床つながりは、本当にご縁としか言いようがないです。

現在は、シミュレーションモデルを用いてコンピュータ上で100平方メートル運動地の森の未来の姿を予測するという研究を行っています。ただし、予測を行うには、基礎となる様々な現地の情報が必要となるため、まずは毎木調査や土壌（どじょう）分析などから始め、地道にデータを積み上げているところです。運動地が他の場所と異なるのは、開拓から現在の森づくりまで過去から現在に至る森の履歴がはっきりしていることです。このような人為的な行いが、言い換えると人為的な「かく乱」が、この先の何百年後の森にどうつながっていくのかなど、どのようなシミュレーション結果が得られるかとても興味を持ちながら取り組んでいます。

最後に、鈴木さんの知床の森への思いや、ご自分の今後の目標をお聞かせください。

知床の森にいると、例えば「なぜあの木は倒れているのだろう」などといろいろな妄想が膨（ふく）らみます。実際はマダニのことを最も気にしているかもしれませんが、現場では常に自然の動態を目に焼き付けるように心がけるようにしています。

今後については、まず運動地のシミュレーションモデルを完成させたいです。そして、それが知床の森づくりの一助になれば本当にうれしいです。その先については、例えば知床半島全体のモデリングに発展させていくなど将来も研究は続け、できるなら知床の森づくりや生態系保全に生涯をかけて貢献していけるような研究者になりたいと思っています。

知床国立公園内の新しい移動方法の提案
Shiretoko Bus Days の取り組み

「移動をサービスに」。

10月2～4日の3日間、こんなコンセプトを基に、知床で新しいシャトルバスシステムが実験的に運用されました。

かねてより知床国立公園の中では利用に伴う課題がありました。秋のサケの遡上（そじょう）とともに川沿いに現れるヒグマを一目見たいと集まる車両や人々、一大観光地である知床五湖の駐車場待ちで連なる車の列、羅臼岳登山口やカムイワッカの滝の少ない駐車スペースからあふれ出す車の数々…。どれも国立公園内のアクセスロード沿いで起きている問題です。

これらの課題を解決することはもとより、より充実した体験の提供や公園利用の満足度の向上を図るため、「Shiretoko Bus Days」というイベントが初めて企画、実施されました。

この3日間、国立公園の入り口、知床自然センターから先は地元のネイチャーガイドが同乗するシャトルバスが走り、解説を聞きながら知床五湖やカムイワッカへと向かってもらいました。また、目の前にひろがる景色や川沿いに現れたヒグマを車高の高いバスからゆっくり眺めたりする利用形態が試されたほか、普段は入れない岩尾別ふ化場の見学ツアーが催（もよお）され好評を博すなど、公園内の新たな魅力発掘もありました。

初めての試みで見えてきた壁もありましたが、今後もこのような取り組みを継続し、訪れた人々により質の高い体験を味わってもらえるような知床を描いていきたいと思います。

運動地 完全取得から10年

おかげさまで、２０１０年のしれとこの森通信にて保全対象地の完全取得をご報告してから10年を迎えました。寄付金により４７１．１８ヘクタールもの土地を保全し、もとの町有地と合わせた運動地全体面積は約８６０ヘクタールで、これは東京ディズニーランド１６．８個分の面積です。

運動を開始した当時は日本中の土地の値段が上がっている最中でした。土地を転売する不動産業者から高額な値段で共同購入してしまったので売るに売れない方々や、知床に思い入れがあり手放したくないという方もいらっしゃいました。しかし最終的には「知床の自然を守り譲渡不能の土地とするならば」と運動の主旨にご賛同頂き、土地の買い取りに応じてくださいました。

最後に取得した土地は、２０１４年7月から「森づくりの道・シカ柵コース」として公開されています。この道では、現場で実際に使われている防鹿柵や樹皮保護ネット、また植樹祭用の苗を見ることができます。

夏のセミの声と照り付けるような日差しを浴びながらササやワラビの草原を歩いたかと思えば、森林内では涼しげな澄んだ空気の中、広葉樹の落ち葉を踏みしめ、小鳥たちの声に耳を傾けることができます。再び草原に出ると知床連山の展望地もあります。

防鹿柵内では中型苗の植樹も行われています。ここで育む木々が順調にその背を伸ばし、いつか山々が見えなくなる日がくることを目指して森づくりを進めていきます。

■「森づくりの道・シカ柵コース」

運動参加者からの message

ご寄付いただいた皆様からのメッセージの一部をご紹介させていただきます。

高校生の時に新聞で斜里町の土地を買う運動の記事を読み、新聞社に往復はがきで連絡先を問い合わせましたが、返事がきませんでした。そのまま月日がたち、今なら検索でわかるじゃないかとググりました。今年還暦になるので、気持ちの整理です。少しですが、お役に立てたら幸いです。

（群馬県　60代女性）

娘が生まれて初めてトラスト運動を知り、参加しました。娘も39才になり、子供も3人さずかりました。このこたちがこのトラスト運動の主旨が理解できる年令になれば、ぜひ知床をおとずれたいですネ。たのしみにしています。ガンバッテください。

（香川県　男性）

高校を卒業してはじめての就職先が斜里町でした。自然豊かな知床が大好きです。僅かですが貢献できて嬉しいです。

（北海道　女性）

30年前に他界した祖父宛に100平方メートル運動の森から手紙が届きました。祖父の意志を引き継いで、主人のふるさと納税から寄付させていただきます。森がいつまでも続きますように。

（東京都　60代女性）

斜里町役場　環境課で自然環境係長を務めています　吉田です。

斜里町役場　吉田貴裕

日頃より、運動へのご支援とご協力をいただきまして、ありがとうございます。

運動は100年後、200年後を見据えた先の長い取り組みです。未来に豊かな自然を引き継いでいく責任を感じながら、職員一同取り組んでいきますので、今後もみなさまのご支援をお願いいたします。

各支部の活動報告

新型コロナウイルス感染症により、思い通りに活動が進められませんでしたが、10月には各支部・本部からしれとこ森の集いに参加がありました。

◎ 運動推進本部

9月から11月、ゆめホール知床や斜里町立図書館で運動パネル展を実施しました。10月、役員で開拓小屋コースを歩き、運動の歴史や知床の自然を学びました。

◎ 関東支部

10月、知床で広報活動についてミーティングし、運動地の作業現場を視察しました。

◎ 関西支部

10月、10代から70代の支部役員・会員が知床に集い広報活動についてミーティングし、森や川の様子を視察しました。1月、知床自然教室参加者を対象にZOOMで懇親会を開催しました。

◎ 北海道支部

7月、北海道庁ロビーの知床パネル展で、運動パネルの展示を2日間行い広報しました。

その他報告

◎ 元関西支部世話人　笠岡英次さんご逝去

1980年の発足当初から2008年まで関西支部世話人代表を務め、関西の運動会員の相互交流・関西での普及にご尽力頂きました。ご冥福をお祈り申し上げます。

◎ 森林再生専門委員　山崎猛さんご逝去

1978年から斜里町自然景観保全審議会委員、その後、森林再生専門委員を歴任、1979年から運動推進本部役員として運動推進にご尽力頂きました。ご冥福をお祈り申し上げます。

◎ 森林再生専門委員　宇野裕之さん退任

2000年から2002年までシカ対策ワーキンググループ委員、2006年から森林再生専門委員を歴任、特にエゾシカの植生への影響についてご助言を頂きました。

◎ 新しい森林再生専門委員の紹介

当運動の森林再生等に専門的なご助言を頂く新たな委員をご紹介します。

三浦　詔男さん
しれとこ100平方メートル運動推進本部
副会長、有限会社斜里印刷　代表取締役

明石　信廣さん
地方独立行政法人北海道立総合研究機構
森林研究本部林業試験場道北支場長

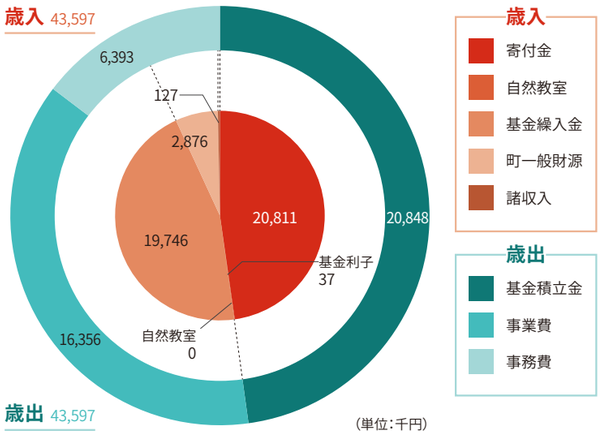
会計報告

運動の活動資金は、「国立公園内森林保全基金」として斜里町が管理しており、町の一般会計と基金からの繰入金により事業を実施しています。

（単位：千円）2021年5月31日現在

			2019年以前	2020年	計
国立公園内森林保全基金の状況	歳入	寄付金	921,803	20,811	942,614
		利息	69,894	37	69,931
		計	991,697	20,848	1,012,545
	歳出	事業費	783,845	16,356	800,201
		事務費	143,533	3,390	146,923
		計	927,378	19,746	947,124
	残高		64,319	1,102	65,421

○2020年度の事業決算

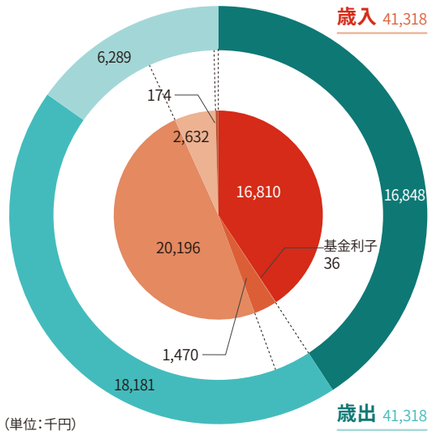


2020年度は、総額43,597千円を支出しました。

事業費として森林再生業務委託費などに16,356千円、事務費として森通信の作成費用や受付事務員賃金などに6,393千円を支出しました。

2020年度にいただいた寄付金など20,848千円は、いったん運動の基金に積み立て、2021年度以降の活動資金として活用していきます。

○2021年度の事業予算



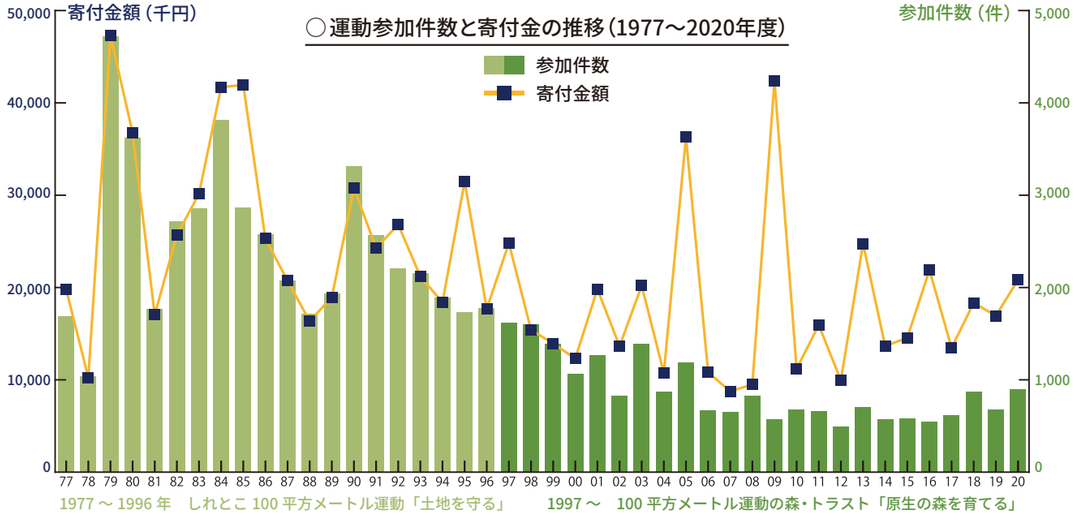
2021年度の総事業費は、41,318千円を予定しています。

収入では、これまで積み立ててきた運動の基金から20,196千円、町の一般会計から2,632千円を繰り入れるほか、寄付金の目標額として16,810千円、その他1,680千円を見込んでいます。

支出は、森づくり作業に係る事業費18,181千円を予定しています。また、事務費として森通信印刷などの広報普及費用や受付事務員賃金などに6,289千円を支出する予定です。

この他、寄付金などはいったん基金に積み立てるため16,848千円を計上しています。

○運動参加件数と寄付金の推移（1977～2020年度）



しれとこの森通信　No.24　令和3年(2021) 5月31日発行　発行:斜里町役場総務部環境課(自然環境係)　〒099-4192 北海道斜里郡斜里町本町12番地 TEL:0152-26-8217 FAX:0152-23-4150

知床の森づくりには、あなたの力が必要です!

森づくりボランティア＆イベント参加者募集中

森づくり週末ボランティア

2021年(春～秋)
・6月～9月にかけて
随時実施予定

【活動内容】
主に苗畑作業(除草・苗木移植等)や防鹿柵の補修作業を行います。

2022年(冬)
・1月末～2月中旬頃
実施予定

【活動内容】
冬期森づくりの道の管理や間伐作業を行います。

イベント・ボランティア参加申し込み・お問い合わせ
公益財団法人 知床財団　自然復元係
TEL:0152-24-2114／MAIL:info@shiretoko.or.jp

しれとこの森交流事業

● 森づくりワークキャンプ
2021年 10/30(土)～11/3日(水)予定
参加費:16,000円(宿泊費・食費・保険料等込み)
対象:18歳以上
定員:12名(先着順)　申込〆切9/30

● 第 41 回知床自然教室
※新型コロナウイルス感染症拡大の影響により中止となりました。

● 第 25 回しれとこ森の集い(植樹祭)
知床サスティナブルフェス同時開催予定(10/9-10)
2021年 10/10(日)予定
参加費:無料 申し込みは
斜里町役場　環境課(自然環境係)まで
TEL:0152-26-8217FAX:0152-23-4150

※各種イベントの日程は、開催決定後ホームページでお知らせします。 http://100m2.shiretoko.or.jp/

100 平方メートル運動の森・トラスト参加のお願い

知床の森づくりは、「100 平方メートル運動の森・トラスト」参加者からの毎年の寄付金によって支えられています。引き続き、あたたかいご支援をよろしくお願い致します。

■寄付金:1口5,000円

参加(寄付)の方法

● 申込書に必要事項を記入の上、郵送またはファックスで斜里町役場へ送信してください。

【郵便払込】
申込書付属の払込取扱票で払い込みください。

寄付をいただいた方に募金証書をお送りします。メッセージを添えて、ご家族ご友人へ贈るプレゼントにもおすすめです。

【ホームページ】
http://100m2.shiretoko.or.jp/
「寄付のお願い」ページからお申込みください。

【現金書留】
申込書を同封の上、現金書留を斜里町役場にお送りください。

【ウェブ決済】
ふるさとチョイス経由のみ可能です。
ふるさとチョイス　斜里町　で検索
クレジット決済、楽天ペイ、Amazon Pay、メルペイ、PayPal、d払い等各種。

【控除制度について】
運動への寄付金は、所得税および住民税の控除制度(ふるさと納税)の対象となります。
- 相続税は非課税となります。
- 所得税は課税対象額から寄付控除を受けることができます。
- 住民税は課税額から寄付控除を受けることができます。
- 控除の対象となるのは、2,000円を超える寄付です。

【お問合せ】
〒099-4192
北海道斜里郡斜里町本町12番地
斜里町役場　環境課(自然環境係)
TEL　:0152-26-8217
FAX　:0152-23-4150
MAIL　:100m2@town.shari.hokkaido.jp

森づくりをSNSにて発信中